

ミュンヘン安保会議でのルビオ米国務長官の演説

マルコ・ルビオ

2026年2月14日

[Secretary of State Marco Rubio at the Munich Security Conference - United States Department of State](#)

欧米の勝利

どうもありがとう。本日ここに集う我々は、世界を救い変えた歴史的同盟の一員である。この会議が1963年に始まった時、それは分裂した国家 いや、大陸そのもの で開催された。共産主義と自由の境界線はドイツの心臓部を貫いていた。ベルリンの壁の最初の有刺鉄線が敷かれたのはそのわずか2年前だった。

そして、私たちの先人たちが初めてここミュンヘンで最初の会合を開くわずか数か月前に、キューバ危機が世界を核破壊の瀬戸際に追い込んでいた。第二次世界大戦の記憶がアメリカ人もヨーロッパ人も同様にまだ生々しい中、私たちは新たな世界的大惨事の脅威に直面していた。それは人類史上かつてない、より終末的で決定的な破壊をもたらす可能性を秘めた新たな災厄だった。

あの最初の集合の時、ソビエト共産主義は勢いを増していた。数千年にわたる西洋文明は危機に瀕していた。当時、勝利は決して確実ではなかった。しかし我々は共通の目的によって駆り立てられていた。我々を結びつけたのは、単に戦う対象だけではない。戦う目的そのものが結束をもたらしたのだ。そして欧米が共に勝利を収め、大陸は再建された。我々の民は繁栄を享受した。やがて東西の陣営は再統合され、文明は再び完全な姿を取り戻したのである。

ルールに基づく世界秩序は幻想

この国を二つに分断していたあの悪名高い壁は崩れ落ち、それに伴い邪悪な帝国も崩壊し、東西は再び一つとなった。しかしこの勝利の陶酔感是我々を危険な錯覚へと導いた——我々は「歴史の終焉」に到達したのだと、あらゆる国家が今や自由民主主義国家となるのだと、国家という概念は貿易と商業によって形成される絆に取って代わられるのだと、ルールに基づく世界秩序——この使い古された言葉が——国家という概念に取って代わるのだと。「歴史の終わり」に到達したのだと。あらゆる国家が自由民主主義国家となるのだと。国家という概念は、貿易と商業によって形成される絆に取って代わられるのだと。ルールに基づく国際秩序 使い古された言葉だが が国家利益に取って代わるのだと。そして我々は国境のない世界で生き、誰もが世界市民となるのだと。

これは愚かな考えであり、人間の本性をも、5000年以上の人類史の記録と教訓をも無視したものだ。それは我々に多大な代償を強いた。この幻想の中で、我々は自由で制約のない貿易という独断的なビジョンを信奉した。一方で一部の国々は自国経済を保護し、企業に補助金を支給して体系的に我々の経済を弱体化させた。その結果、我々の工場は閉鎖に追い込まれ、社会の大部分が脱工業化され、数百万もの労働者階級・中産階級の雇用が海外に流出した。さらに我々の重要サプライチェーンの支配権を、敵対国と競争相手の双方に委ねてしまったのである。

我々は主権を国際機関に委ね続けた。その一方で、多くの国々が防衛能力の維持を犠牲にして巨大な福祉国家に投資してきた。他国が人類史上最も急速な軍事増強に投資し、自らの利益追求のためにハードパワーを躊躇なく行使しているにもかかわらずだ。気候変動カルトをなだめるため、我々は自国民を貧困化させるエネルギー政策を自らに課した。一方で競争相手国は石油・石炭・天然ガスなどあらゆる資源を搾取している——単に自国経済を動かすためだけでなく、我々に対する圧力手段として利用するためだ。

そして国境なき世界を求めて、私たちは前例のない大規模な移民の波を受け入れた。それは社会の結末、文化の継承、そして人々の未来を脅かすものである。私たちは共に過ちを犯した。今こそ共に、その事実に向き合い、前進し、再建する義務を国民に対して負っているのだ。

アメリカと欧州は一つ

アメリカ合衆国はトランプ大統領のもとで、過去の文明と同じくらい誇り高く、主権を持ち、活力に満ちた未来を築くという使命に取り組む。そして、必要であれば我々は単独でもこの道を進む覚悟だが、願わくはヨーロッパの友人である皆さんと共に、この目標を達成したい。

アメリカとヨーロッパは、共にあるべき存在だ。アメリカ合衆国は250年前に建国されたが、その起源はずっと前にこのヨーロッパ大陸にあった。私の祖国を拓き築いた人々は、祖先の記憶、伝統、そしてキリスト教の信仰を神聖な遺産、旧世界と新世界を結ぶ断ち切れない絆として携え、この地に渡ってきたのだ。

我々は一つの文明　西洋文明　の一部である。我々は、国家が共有しうる最も深い絆によって結ばれている。それは、何世紀にもわたる共有の歴史、キリスト教の信仰、文化、遺産、言語、祖先、そして我々が受け継いだ共通の文明のために先人たちが共に払った犠牲によって築かれた絆である。

私たちアメリカ人の助言が、ときに少し率直すぎたり、性急なように感じられるかもしれないのはこのためだ。トランプ大統領が、ここヨーロッパの友人たちに対して、真剣さと対等な対応を求めているのもこのためだ。理由は、私たちは心から気にかけているからなのだ。あなた方の未来、そして私たち自身の未来を、深く大切に思っているからなのだ。

時に意見が対立することもあるが、その対立は、経済的・軍事的だけでなく、精神的・文化的に結びついた欧州への深い懸念から生じている。私たちは欧州が強くなることを願っている。ヨーロッパは存続しなければならないと確信している。なぜなら、前世紀の二つの大戦争が残した教訓は、私たちの運命が究極的には常に欧州の運命と結びついているというものだからだ。私たちは知っている
(拍手)　欧州の運命が私たちの運命にとって無関係であることは決してないということ。

愚かな脱工業化の選択

この会議の主なテーマである国家安全保障は、単なる技術的問題の羅列ではない。防衛費の規模や配分先、配備方法といった問題は重要だ。確かに重要である。しかしそれらは根本的な問題ではない。我々が最初に答えなければならない根本的な問いは、いったい何を防衛するのかということだ。なぜなら軍隊は抽象的な概念のために戦うのではないからである。軍隊は民衆のために戦う。軍隊は国家のために戦う。軍隊は生活様式のために戦う。そして我々が守ろうとしているのは、まさにそれである。自らの歴史を誇りに思うべき理由を全て備え、未来に確信を持ち、常に自らの経済的・政治的運命の主導権を握り続けることを目指す偉大な文明を。

自由の種を蒔き世界を変えた思想は、このヨーロッパで生まれた。法の支配、大学、科学革命を世界に与えたのも、このヨーロッパである。モーツァルトとベートーヴェン、ダンテとシェイクスピア、ミケランジェロとダ・ヴィンチ、ピートルズとローリング・ストーンズの天才を生み出したのも、この大陸だ。そしてこここそが、システィーナ礼拝堂のアーチ型天井やケルン大聖堂のそびえ立つ尖塔が、単に我々の過去の偉大さや、これらの驚異を生み出した神への信仰を証言する場所ではない。それらは我々の未来に待ち受けている驚くべき出来事を予見しているのだ。しかし、私たちが自らの遺産を臆することなく誇り、この共通の遺産を胸に刻むときのみ、経済的・政治的未來を構想し形作る作業を共に始められるのだ。

脱工業化は避けられなかったわけではない。それは意識的な政策選択であり、数十年にわたる経済的取り組みによって、我々の国々は富と生産能力、そして自立性を剥奪されたのである。そしてサプライチェーン主権の喪失は、繁栄し健全な世界貿易システムの産物ではなかった。それは愚かな選択だった。愚かな自発的な経済変革によって、我々は必要物を他者に依存する状態に陥り、危機に対して危険なほど脆弱になったのである。

大量移民は、過去も現在も、取るに足らない周辺的な懸念などではない。それは西側諸国全体で社会を変容させ不安定化させる危機であり、今もなお続いている。我々は共に経済の再工業化を図り、国民を守る能力を再構築できる。しかしこの新たな同盟の取り組みは、軍事協力や過去の産業の回復だけに焦点を当てるべきではない。相互の利益と新たなフロンティアを共に推進し、独創性や創造

性、そして新たな西洋の世紀を築くための活力ある精神を解き放つことにも焦点を当てるべきだ。商業宇宙旅行と最先端人工知能、産業自動化とフレキシブル製造、他国からの脅迫に脆弱でない重要鉱物の西洋サプライチェーン構築、そしてグローバル・サウス経済における市場シェア争いに向けた統一された取り組み。我々は共に、自国の産業とサプライチェーンの主導権を取り戻すだけでなく、21世紀を定義する分野で繁栄を築くことができる。

しかし我々は国境の管理も確立しなければならない。誰が、どれだけの数で我が国に入国するかを管理することは、外国人嫌悪の表れではない。憎悪でもない。国家主権の根本的な行使である。そしてこれを怠ることは、国民に対する最も基本的な責務の一つを放棄するに留まらない。それは我々の社会の基盤と文明そのものの存続に対する差し迫った脅威なのである。

国際秩序よりアメリカの指導権

そして最後に、我々はもはや、いわゆる国際秩序を、我々の国民と国家の重大な利益よりも優先させることはできない。我々が主導して築いた国際協力の枠組みを放棄する必要はなく、共に構築した旧体制の国際機関を解体する必要もない。しかし、これらは改革されねばならない。これらは再構築されねばならない。

例えば、国連は依然として世界における善の道具となる大きな可能性を秘めている。しかし今日、我々の前の迫った問題に答えを出せず、事実上何の役割も果たしていないという事実を無視できない。国連はガザの戦争を解決できなかった。代わりに、野蛮人から捕虜を解放し、かろうじて休戦をもたらしたのはアメリカのリーダーシップであった。国連はウクライナ戦争も解決していない。両陣営を和平交渉の席に着かせたのは、アメリカのリーダーシップと、今日ここにいる多くの国々との連携によるものだ。それでもなお、和平は依然として遠い。

国連はテヘランの過激派シーア派聖職者による核計画を抑制する力もなかった。それを成し遂げたのは、米軍 B-2 爆撃機による精密な 14 発の爆弾投下だった。また、ベネズエラの麻薬テロリスト独裁者による我々の安全保障への脅威に対処することもできなかった。代わりに、この逃亡者を裁きにかけるには米特殊部隊の介入が必要だった。

理想的な世界であれば、こうした問題のすべて、そしてそれ以上の課題も外交官や強い表現の決議によって解決されるだろう。しかし我々は理想的な世界には生きておらず、自国民を露骨かつ公然と脅かし、世界の安定を危険に晒す者たちが、自ら日常的に違反している国際法の抽象概念の陰に隠れ続けることを、これ以上許容することはできない。

米欧同盟の基礎とは

これがトランプ大統領とアメリカ合衆国が進み始めた道である。我々は欧州の諸君に、この道に共に歩むよう求める。かつて共に歩んだ道であり、再び共に歩むことを願う。第二次世界大戦終結までの五世紀にわたり、西洋は拡大を続けてきた。宣教師、巡礼者、兵士、探検家はその海岸から溢れ出て、海を越え、新大陸に定住し、地球規模に広がる巨大な帝国を築いた。

しかし1945年、コロンブスの時代以来初めて、それは縮小しつつあった。ヨーロッパは廃墟と化していた。その半分は鉄のカーテンの向こう側に閉じ込められ、残る半分も間もなく追隨するかに見えた。偉大な西洋帝国は終焉の衰退期に突入していた。無神論的な共産主義革命と反植民地蜂起がそれを加速させ、世界を変革し、やがて広大な地域に赤い鎌と槌の旗を翻すことになった。

そうした背景のもと、当時も今も、多くの人々が西側の支配の時代は終わりを告げ、我々の未来は過去の淡く弱々しい繰り返しに過ぎないと考えるようになった。しかし私たちの先人たちは、衰退は選択の結果であると認識し、それをかばむことを選択した。これはかつて私たちが共に成し遂げたことであり、トランプ大統領と米国が今、あなた方と共に再び成し遂げたいと願うことである。

だからこそ我々は同盟国が弱くなることを望まない。それは我々自身を弱体化させるからだ。我々は、敵対者が我々の集団的強さを決して試そうとしないよう、自らを守れる同盟国を望む。だからこそ我々は同盟国が罪悪感や恥に縛られることを望まない。自らの文化と遺産を誇りに思い、我々が同じ偉大で高貴な文明の継承者であることを理解し、共にそれを守り抜く意志と能力を持つ同盟国を望む。

だからこそ我々は、同盟国が現状の破綻を正当化するのを望まない。修復に必要な措置に向き合うことを望む。アメリカは、西側の衰退を礼儀正しく秩序立てて管理することに何の関心もないからだ。我々が求めるのは分離ではなく、古き友情の再生と人類史上最大の文明の刷新である。我々が望むのは、社会を蝕んできたものが単なる悪政ではなく、絶望と自己満足という病だと認識する、活力に満ちた同盟だ。我々が求める同盟とは、気候変動への恐怖、戦争への恐怖、技術への恐怖によって行動不能に陥る同盟ではない。むしろ、未来へと大胆に突き進む同盟を望む。我々が抱く唯一の恐怖は、子孫のためにより誇り高く、より強く、より豊かな国家を残せなかったという恥である。

同盟は、我々の国民を守り、利益を守り、自らの運命を形作る自由な行動を保つためであり、世界的な福祉国家を運営したり、過去の世代の罪を償うために存在するのではない。権力を外部委託したり、制約を受けたり、制御不能なシステムに従属させたりしない。国家存続の要となる必需品を他者に依存しない。我々の生活様式は数ある選択肢の一つに過ぎず、行動する前には許可を求めるといった偽善的な建前は維持しない。そして何よりも、我々西洋が共に受け継いだもの

共に受け継いだものは唯一無二で、他に代えがたいものであるという認識に基づく同盟でなければならない。結局のところ、これこそが大西洋を跨ぐ絆の基盤そのものだからである。

このように共に行動することで、我々は健全な外交政策を取り戻すだけでなく、より明確な自己認識を取り戻すだろう。それは世界における我々の地位を回復させ、それによって今日アメリカとヨーロッパを同様に脅かす文明消滅の勢力を戒め、抑止するのだ。

西洋文明世界の再生へ

大西洋時代の終焉を告げる見出しが飛び交う今こそ、これが我々の目標でも願いでもないことを万人に明らかにしておこう。なぜなら我々アメリカ人にとって、故郷は西半球にあっても、常にヨーロッパの子であるからだ。（拍手）

私たちの物語は、未知の大地へ冒険を挑み、新世界を発見したイタリア人探検家から始まった。その探検がキリスト教をアメリカ大陸にもたらし、開拓者国家の想像力を形作った伝説となったのである。

最初の入植地はイギリス人入植者によって建設された。話す言語だけでなく、政治・法制度全体も彼らのお陰だ。私たちのフロンティアは、スコットランド系アイルランド人、つまりウルスターの丘陵地帯出身の誇り高く心温かな一族によって形作られた。彼らから、デイヴィ・クロケット、マーク・トウェイン、セオドア・ルーズベルト、ニール・アームストロングといった人物が生まれた。

我らが偉大な中西部ハートランドは、ドイツ人農民と職人によって築かれた。彼らは荒れ果てた平原を世界的な農業大国へと変貌させ　　ついでに言えば、アメリカのビールの品質を劇的に向上させた。（笑）

我々の内陸部への進出には、フランス人毛皮商人や探検家の足跡が残っている。ちなみに彼らの名は今もミシシッピ川流域の街路標識や町名に刻まれている。我々の馬、牧場、ロデオ　　アメリカ西部を象徴するカウボーイ像のロマンそのものは、スペインに起源を持つ。そして我々の最大かつ最も象徴的な都市は、ニューヨークと名付けられる前、ニューアムステルダムと呼ばれていた。

そしてご存知だろうか、我が国が建国されたその年、ロレンツォとカタリナ・ジェロルディ夫妻はピエモンテ・サルデーニャ王国のカザーレ・モンフェッラートに住んでいた。そしてホセとマヌエラ・レイナはスペインのセビリアに住んでいた。彼らがイギリス帝国から独立を果たした 13 植民地について、何か知っていたかどうか私は知らない。しかし私は確信している。彼らは想像もできなかったということ。250 年後に、自分たちの直系の子孫の一人が、この大陸に、あの若い国家の首席外交官として今日戻ってくるとは。しかし私はここにいる。自分自身の物語によって、私たちの歴史と運命が永遠に結びついていることを改めて思い知らせるのだ。

二度の壊滅的な世界大戦の後、私たちは共に粉々になった大陸を再建した。再び鉄のカーテンによって分断されたとき、自由な西側は東の専制政治と戦う勇敢な反体制派と手を携え、ソビエト共産主義を打ち破った。我々は互いに戦い、和解し、再び戦い、再び和解してきた。そしてカピオンからカンダハールに至る戦場で、共に血を流し、共に命を落としてきた。

そして本日ここに、アメリカが新たな繁栄の世紀への道筋を拓いていること、そして再び、我々が大切な同盟国であり古くからの友である皆様と共に歩みたいと願っていることを、明確に申し上げたいと思う。（拍手）

我々はあなた方と共にこれを成し遂げたい。自らの遺産と歴史を誇りに思うヨーロッパと共に、未知の海へ船を送り出し、文明を生み出した自由の創造精神を持つヨーロッパと共に、自らを守る手段と生き残る意志を持つヨーロッパと共に。我々は前世紀に共に成し遂げたことを誇りに思うべきでだ。しかし今こそ新たな世紀の機会に向き合い、それを掴み取らねばならない。なぜなら、昨日は過ぎ去り、未来は必ず着て、共通の運命が待ち受けているからだ。ありがとうございました。（拍手）

質問： 長官、先ほどお聞きした、私が安心と協力のメッセージと解釈する内容に、この会場全体が安堵のため息をついたのを、お聞きになったのでしょうか。米国と欧州の相互に絡み合った関係についてお話しになりましたが、それは数十年前、前任者たちが「米国は欧州における勢力なのか」と議論していた時代の発言を思い出させます。私たちのパートナーシップについて、このような安心感を与えるメッセージを提示していただき感謝します。

マルコ・ルビオ氏がミュンヘン安全保障会議に出席するのは今回が初めてというわけではありません。これまでも数回出席していますが、国務長官として出席し、講演を行うのは今回が初めてです。改めて、ありがとうございます。質問は数分間、わずか数件のみ受け付けます。ご出席の皆様から質問を集めましたので、どうぞお聞きください。

ここ数日、そして今日もなお、ウクライナ戦争への対応が主要課題の一つであることは言うまでもありません。過去 24 時間にわたる議論の中で、我々の多くはロシア側が率直に言えば時間稼ぎをしているだけで、実質的な解決には全く関心がないという印象を表明してきました。彼らの最大主義的な目標のいずれについても、妥協する意思を示す兆候は全く見られません。現状の分析と今後の見通しについて、ご意見を伺えれば幸いです。

ルビオ国務長官： 現時点での状況はこうです。重要な課題はここが良い知らせです。良い知らせとは、この戦争を終結させるために直面すべき課題が絞り

込まれたことです。それが良い知らせです。悪い知らせは、それが最も答えにくい問題に絞り込まれたことであり、その面ではまだ取り組むべき課題が残っています。おっしゃる点は理解しています。答えは「わからない」です。ロシアが戦争終結に真剣かどうかは不明です。彼らはそう主張していますが、どのような条件で終結する意思があるのか、ウクライナが受け入れ可能でロシアが常に同意する条件を見出せるのか。しかし我々は引き続き検証を続けます。

その間も、他のあらゆる動きは続いている。米国はロシア産原油への追加制裁を発動した。インドとの協議では、同国がロシア産原油の追加購入を停止する確約を得た。欧州も独自の対応策を推進している。ウクライナ戦争支援のため米国製兵器を売却するパール計画も継続中だ。こうした動きは全て継続中だ。この間、何も止まってはいない。つまり、時間稼ぎなど一切行われていないということだ。

私たちが答えられないこと　しかし検証を続けるつもりだ　は、ウクライナが受け入れられ、かつロシアも容認する結果が存在するかどうかだ。そして現時点では、それは依然として見出せていないと言える。進展があったとすれば、少なくとも技術レベルでは数年ぶりに、先週両軍の将校が初めて会合したことです。そして火曜日にも再び会合が予定されています（ただし同じメンバーではない可能性があります）。

見てください、我々は、この戦争を終結させる役割を果たすため、あらゆる努力を続けていく。この場にいる誰もが、公正かつ持続可能な条件が整う限り、この戦争の交渉による解決に反対するとは思わない。それが我々の目指すところであり、制裁などの他の動きが続く中でも、引き続きその実現に努めていく。

質問： どうもありがとうございました。　ウクライナに関する質問は、時間があればもっとあったでしょう。しかし、全く別の話題について質問して締めくくりたいと思います。数分後には、中国の外相がここで次にご登壇されます。上院議員を務められた際、あなたは一種の対中強硬派と見なされていました。

ルビオ国務長官： 彼らもそうでした。

質問： それで、彼らはそうしたのか？

ルビオ国務長官： ええ。

質問： トランプ大統領と習近平国家主席による首脳会談が約2か月後に開催される見込みですが、ご見解をお聞かせください。楽観的ですか？中国とのいわゆる「合意」は成立するのでしょうか？どのような結果を予想されますか？

ルビオ国務長官：そうですね、こう言いたいと思います。世界最大の二つの経済大国、地球上の二つの大国として、我々は彼らと意思疎通を図り対話する義務があります。皆さんの中にも二国間ベースで同様の対応をしている方が多くいらっしゃるでしょう。つまり、中国との対話を避けるとすれば、それは地政学的な過失と言えるでしょう。こう言いたい：我々は巨大な地球規模の利益を持つ二つの大国であるため、国家利益が一致しないことは頻繁にある。彼らの国家利益と我々の国家利益は一致しない。そして我々は、経済的衝突はもちろん、それ以上の事態を明らかに回避しつつ、それらを可能な限り最善に管理しようと努める義務を世界に負っている。つまり、そうした観点から彼らとの対話を維持することが我々にとって重要なのです。

利益が一致する分野においては、共に協力して世界に良い影響を与えられると考えており、その機会を模索しています。したがって、しかし我々は中国との関係を築かねばなりません。そして本日ここに代表されるどの国も、中国との関係を築く必要があり、合意するいかなる事項も自国の国益を損なうものであってはならないことを常に理解しなければなりません。率直に申し上げて、我々は中国が自国の国益に基づいて行動することを期待しています。それは我々があらゆる国家が自国の国益に基づいて行動することを期待するのと同じです。外交の目的は、互いの国益が衝突する局面を、常に平和的に解決しようと模索することにあります。

米国と中国の貿易問題がどう展開しようと、それは世界的な影響を及ぼすため、我々には特別な責任があると考えています。したがって、我々が直面する長期的な課題は、中国との関係において摩擦要因となるものであり、これに対処せざるを得ません。これは米国だけでなく、より広範な西側諸国にも当てはまります。とはいえ、可能な限り不必要な摩擦を避けるため、最善の管理を試みる必要があると考えます。ただし誰も幻想を抱いてはいません。両国間、そして西洋と中国の間には、様々な理由から当面の間続くであろう根本的な課題が存在します。これらは我々が貴国と協力して取り組みたい課題の一部です。

質問： 大臣、誠にありがとうございました。時間が尽きてしまいました。ご質問をいただいた皆様全員にお答えできず申し訳ありません。国務長官、この安心感を与えるメッセージをありがとうございました。この会場の皆様も大変感謝していると思います。拍手を送りましょう。（拍手）

【翻訳チェック 田中靖宏】